

ぼくは社会を明るくするためには、日々のいろいろな所にある小さな出来事の一つ一つに感謝することが大切だと考えています。

そう考えるようになったきっかけは、お父さんの車に乗っている時に気づいた事でした。丁字路で曲がる時や、道に出る時、止まってくれた車に、お父さんが会釈をすると、相手の方も返してくれるということが何度もありました。

このことではくがいいなと思った事が二つあります。一つ目は、見ず知らずの人にも感謝の気持ちを示せばそれは帰ってくるということです。「どこで生まれ、どこで育ち、何をするためにこの場所にいるのか、」それがおたがいに分からなくても感謝の会釈一つでつながり、それが返ってきて、またつながる。このサイクルで人の小さな感謝の気持ちは社会に広がっていくんだなと思いました。

二つ目は、言葉が無くても、感謝は伝わると思った事です。言葉が伝わらない環境でも身ぶり手ぶりを使う工夫をすると、相手の方もそれをくみとって返してくれるので、会釈だけでも感謝の気持ちが伝わっています。この延長上に手話などの言葉以外の会話方法があるんだなと思いました。

これ以外でも、日常で小さな感謝を伝え合う場面があると思いますが、その場面一回一回を大切にすることが非行の防止につながると思いました。理由は、だれかに感謝してもらったら、もう一度感謝されるような事をしたくなるからです。こう考えてみてください。あなたが、自主的に家のリビングをそうじして、そのことをだれかに感謝されたとしましよう。そうすると、人に感謝されることがうれしくなって、「またやろう」

と思い、それがくりかえされ、それが習慣になります。人に感謝されることが習慣になると、非行などの人に迷惑をかけるような行為をしようとは思わなくなるとぼくは思います。

ぼくは、関西の方言で好きな言葉があります。それは、「おおきに」という言葉です。関西で特にご年配の方が使っている印象があります。そんな「おおきに」は、ありがとうという意味で使われます。「おおきに」は、小さな感謝を伝え合うための言葉だと思います。ぼくのおばあちゃんもよく「おおきに」という言葉をつかうのですが、おおきにと言っているおばあちゃんも、おばあちゃんの友だちの人も心なしに笑っているように思います。日常のちょっとした「コマで、相手に小さな感謝を言葉や会釈で、伝える」とは、見ず知らずの人でもいつながりをつくったり、知人や友人との関係を深めたりしていく意味のある事だと改めて気づきました。

最後にこれから自分にもできることを考えてみました。ぼくは学校で、代議員というクラスを代表する役割をしています。ふつうの学校生活より、他の学校の人たちの前で発表するなどの場面が多くあると思います。そこで学んだ自分以外の人の考え方や思いを自分の学校の人に伝えていきたいです。自分と違う考え方を受け入れ、人に小さな感謝を伝えられる人が増えれば、もっといい社会になると思います。

ぼく自身もふだんの学校生活を見直し、みんなの もはんに なれるような人になりたいです。